



飛鳥地域出土の風鐸  
(撮影：企画調整部 栗山 雅夫)



飛鳥寺旧境内出土風鐸（原寸大 左：表面、右：裏・内面）  
(撮影：井上 直夫)

飛鳥地域出土の風鐸

2018年度の飛鳥寺旧境内の発掘調査（飛鳥藤原第 197-3 次）で小型の風鐸が出土しました（上写真）。半円形の鈕には鍍金がよく残り、その下に凹字形の風招吊手がついています。全体のプロポーシヨンや風招吊手の形状から、創建期飛鳥寺の塔相輪にともなう可能性があります。

これを機に、飛鳥地域から出土した風鐸を検討しました。左の集合写真は上述の飛鳥寺旧境内出土の風鐸（左下1点のみ）と大官大寺塔周辺出土の風鐸です。大官大寺の風鐸はばらばらになっていますが、復元すると総高50 cm以上になる大型の風鐸です。大型で、段によって本体を縦と横に区画し、上半には乳とよぶ突起をもつことから、軒先用の風鐸とみられます。

なお、鉛同位体比分析をしたところ、飛鳥寺旧境内の風鐸には、中国大陸か朝鮮半島産の鉛原料が用いられ、大官大寺の風鐸には日本列島産の原料が用いられている可能性が高くなりました。

（都城発掘調査部 片山 健太郎）